

平成 30 年度

事業報告書

Rika Kindergarten



☆ 事業状況

平成 30 年 4 月 1 日から、新幼稚園教育要領が施行され適切な教育課程の編成・実施及び必要となる教育条件の整備が求められております。当園としては、これまでの様々な教育実践の積み重ねを生かし、豊かな創造性を備え将来社会を支える子供たちが、急速に変化する昨今の社会情勢において、自立的に生きることが出来る、「生きる力」の形成を念頭に教育活動を行って参りました。

この度の教育要領の改正では、知識理解の質を高め具体的に、「何が出来るようになるか」を明確にすることを目的の一つに掲げています。

この点において、当園が今まで続けてきた教育活動の集大成の内容だと考えております。幸いにも、教職員の資質向上は極めて高く、ベテラン教諭も結婚・出産・子育てを経験しながら集結しており、充実した教職員の体制を作り上げております。近隣に目を向けると、認定こども園の急増や保育園との融合を求められる幼稚園が多く見られ、本来の幼児教育活動とは異なる方向性も感じます。

こうした社会環境の中で、当園は積み重ねた教育実績を中心に、社会が求める教育を真正面に捉え、自らの教育の方向性を見失うことなく邁進しております。未来を担う子供たちが将来活躍できるよう、基礎を構築することで社会の信頼を得るよう考えております。今後も「教育の梨花幼稚園」の教育理念を大切に、努力を重ねて参ります

保護者の皆様をはじめ、関係者各位の一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

☆ 平成 30 年度に実施した活動についての検証は以下の通りです。

1. 園児募集について、新たなチャンネルでの募集活動を行っており、感触を得ております。
近隣の小規模保育施設への呼びかけを行い、小規模保育施設終了後の幼児の受け皿として、当園を選択されるよう活動しました。特に、幼児期教育の重要性を強調し当園の強みである「作法教育」等を具体的に示すことで教育内容を強調しました。
2. 保護者に対して、「生きる作法を身に付ける」に注目し、具体的に伝えることとし、特に、挨拶の質を重視し、園児一人一人に教育効果が表れるよう形にこだわり指導しました。
又、三歳児については、家族全員で我が子の成長を実感できるようあらゆる方向から指導を試み、効果が出ておりおます。
3. 最近「子どもの声が出ない」と感じます。このことは、子ども自身の自信の無さの表れだと考え、この点を解消すべく、自信をつけさせるよう継続的な指導を行ないました。
あらゆる場面での成功体験は自信に繋がることは、過去の教育活動でも明らかであり、全ての子どもに自己肯定感を高めることが重要です。「～ができた！」を実感させることからはじめ、1～2割の子どもが求めるレベルに達していないことを見過ごすことなくレベルの引き上げを行う指導を行なった結果、様々な場面で変化が見られました。どんなに立派な教育を行ったとしても、「落ちこぼれ」が出ては評価の対象にはなりません。
全学年に対し指導を徹底し、「落ちこぼれ」を出さないよう注意して指導しております。
「やればできる」を実践し、「できた～!!」を感じさせることで、「生きる力」を育てて参ります。
4. 幼稚園は幼児教育機関であると同様に、初めての学校集団教育の場としての機能を意識した教育プログラムを実施してきました。教職員の専門性を高めプロ集団としての意識を高めて参ります。
5. 「たくましきづくり」「優しい子に育てる」「マーチングの完成度を向上し維持する」等、従来通り指導強化に努め、相当の効果を確信しております。

令和 元 年 5 月 7 日

学校法人 鷺巣学園 梨花幼稚園
園長 高瀬 絹代